

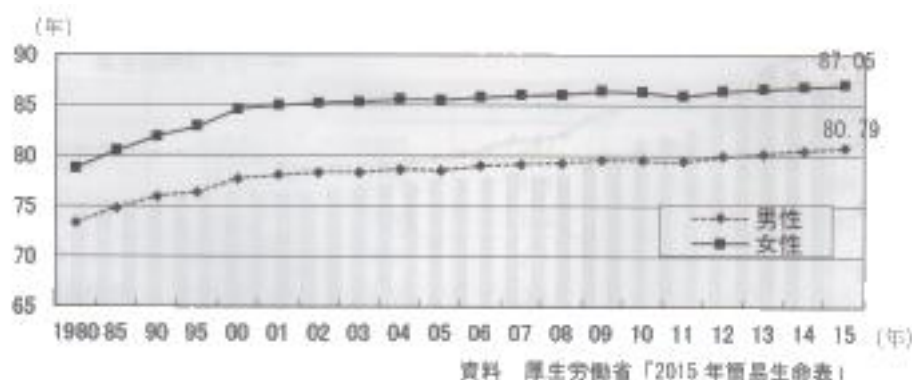
ますます延びる平均寿命、進む少子高齢化！

（１）平均寿命、男女ともに前年を上回る

厚生労働省が発表した「2015 年簡易生命表」によると、2015 年の日本人の平均寿命は、男性 80.79 年、女性 87.05 年と、前年に比べて男性は 0.29 年、女性は 0.22 年上回りました。主な年齢の平均余命をみると、男女とも全年齢で前年を上回っている。また、平均寿命の男女差は 6.26 年で、前年より 0.07 年減少した。

現在、若年層の死亡率の改善がほぼ限界に達していることから、今後の平均寿命は、中高年層における生活習慣病による死亡率の動向に左右されられると考えられる。

- 平均寿命の推移 -



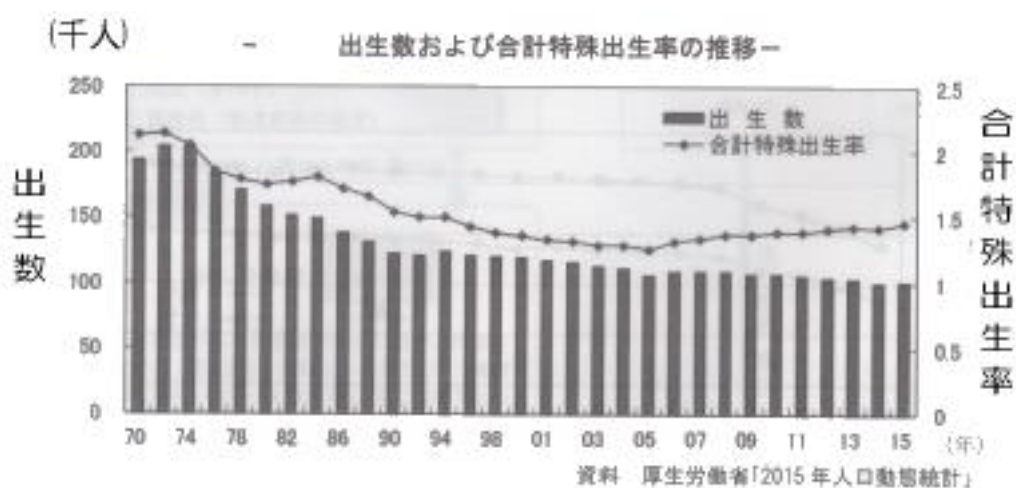
また、平均寿命の国際比較では、厚生労働省が把握している最新のデータによると、日本の女性は 2 位、男性は 4 位となっている。女性の 1 位は香港(81.24 年)、2 位はアイスランドとスイス(81.00 年) だった。

日本の女性は、昨年まで 3 年連続 1 位だったが、2 位に順位を落とし、男性も 3 位から 4 位になった。

(2) 出生数 5 年ぶりに増加

厚生労働省が発表した「2015 年人口動態統計」によると、2015 年の出生数は 100 万 5677 人で、前年の 100 万 3539 人に比べて 2138 人増加した。2010 年以降減少が続いていたが、5 年ぶりの増加となった。出生数を母の年齢（5 階級）別に見ると、29 歳以下の各階級では前年より減少したが、30～49 歳の各階級では増加した。出生数が増えた要因としては、雇用状況の改善に加え、保育所の整備などの子育て支援策が影響していると考えられる。

また、2015 年の合計特殊出生率（1 人の女性が 15～49 歳の間に産む子どもの数の平均）は 1.46 で、前年を 0.04 上回った。合計特殊出生率は 2005 年の 1.26 を底に緩やかな回復傾向にあるが、水準は依然として低く、今後も人口減少が続く見通しとなっている。



- 日本の人口動態 -

出生	死亡	乳児死亡	死産	婚姻	離婚
100 万 5677 人 31 秒に 1 人	129 万 444 人 24 秒に 1 人	1916 人 4 時間 34 分 19 秒に 1 人	2 万 2617 胎 23 分 14 秒に 1 胎	63 万 5156 組 50 秒に 1 組	22 万 6215 組 2 分 19 秒に 1 組

資料 厚生労働省「2015 年人口動態統計」

（３）女性の高齢者割合が 30%を超える

総務省が毎年「敬老の日」に合わせて発表する「推計人口」によると、2016 年 9 月 15 日現在の 65 歳以上の高齢者人口（推計）は、3461 万人（前年度比＋73 万人）と大きく増加し、総人口に占める割合は 0.6 ポイント増の 27.3%となった。男女別にみると、男性は 1499 万人（男性人口の 24.3%）、女性は 1962 万人（女性人口の 30.1%）と、女性が初めて女性人口の 30%を超えた。高齢化の進行は、主要国と比較しても最も早くなっている。2017 年からは、いわゆる「団塊の世代」の人々が 70 歳になり、健康上の問題が大きくなっていることが懸念される。

また、15 歳未満の年少人口（推計）は、前年より 15 万人少ない 1597 万人で、35 年連続の減少となり、過去最低を更新した。男女別では、男子が 818 万人、女子が 779 万人で、男子が女子より 39 万人多くなっている。総人口に占める子どもの割合は 12.6%で、42 年連続で過去最低を更新している。

- 年齢区分別の人口 -

		総数	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
人口 (万人)	男女計	12,695	1,597	7,637	3,461
	男性	6,175	818	3,858	1,499
	女性	6,520	779	3,779	1,962
総人口に 占める割合 (%)	男女計	100.0	12.6	60.2	27.3
	男性	100.0	13.2	62.5	24.3
	女性	100.0	11.9	58.0	30.1

注）人口は、万人単位に四捨五入してあるため、内訳の計は必ずしも合計に一致しない

資料：総務省「推計人口」（2016 年 9 月 15 日現在）

資料：総務省「推計人口」（2016 年 9 月 15 日現在）

厚生労働省の発表によると、2016 年 9 月 1 日現在の 100 歳以上の高齢者は 6 万 5692 人（前年度比＋4124 人）で、46 年連続で過去最多を更新した。このうち、女性は 5 万 7525 人（前年度比＋2764 人）で全体の 87.6%を占め、男性は前年より 327 人増加して 8167 人だった。医療技術の進歩と高齢者の健康への意識の高まりなどにより、今後も増加すると考えられる。

(4) 死亡者増加により続く人口減

厚生労働省が発表した「2015 年人口動態統計」によると、2015 年の死亡者数は 129 万 444 人で、前年より 1 万 7440 人増加し、過去最低となった。

出生数から死亡数を引いた人口の自然減数は 28 万 4767 人となり、9 年連続となり、9 年連続で自然減が続いている。

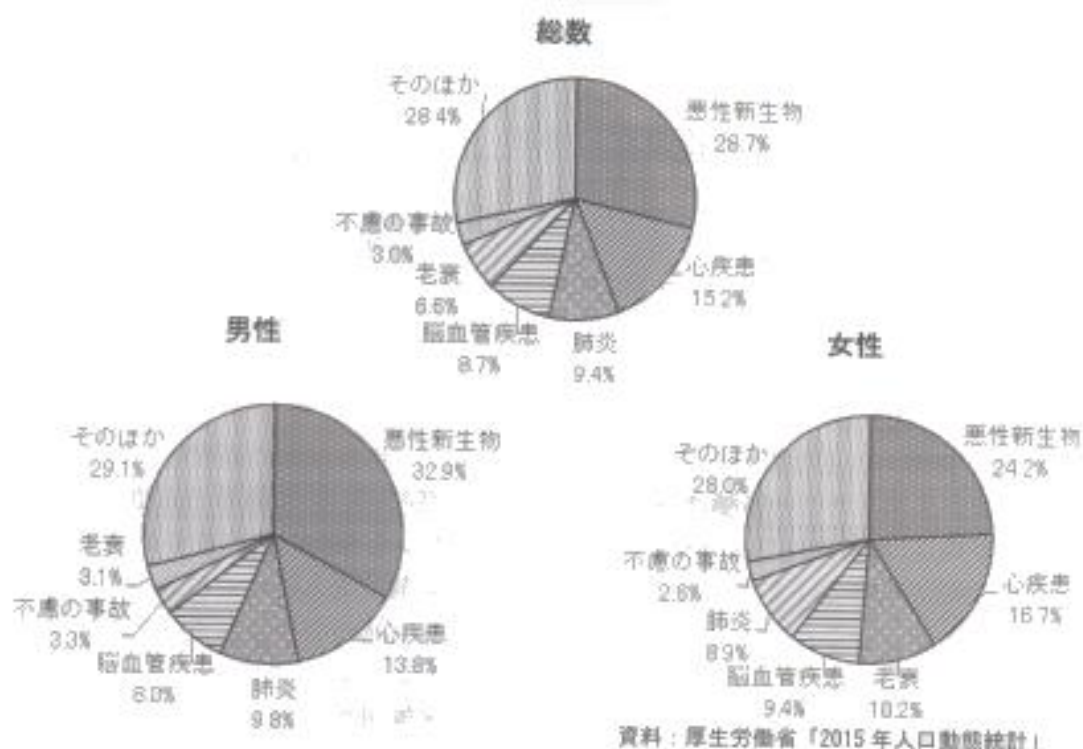
死亡順位は 1 位が悪性新生物、2 位が心疾患、3 位が肺炎となっている。悪性新生物は全死亡の 28.7%にあたり、およそ 3 人に 1 人が悪性新生物で死亡していることになる。悪性新生物の部位別では、男性は 1 位が肺がん、2 位が胃がん、3 位が大腸がん、女性は 1 位大腸がん、2 位肺がん、3 位胃がんで、大腸がんと肺がんの上昇が続いている。

- 死因順位・第 10 位までの死亡数 -

	総数		男性		女性	
	死因	死亡数 (人)	死因	死亡数 (人)	死因	死亡数 (人)
	全死因	1,290,444	全死因	666,707	全死因	623,737
1	悪性新生物	370,346	悪性新生物	219,508	悪性新生物	150,838
2	心疾患	196,113	心疾患	92,142	心疾患	103,971
3	肺炎	120,953	肺炎	65,609	老衰	63,916
4	脳血管疾患	111,973	脳血管疾患	53,576	脳血管疾患	58,397
5	老衰	64,810	不慮の事故	22,121	肺炎	55,344
6	不慮の事故	38,306	老衰	20,894	不慮の事故	16,185
7	腎不全	24,560	自殺	16,202	腎不全	12,652
8	自殺	23,152	慢性閉塞性 肺疾患	12,642	大動脈瘤 および解離	8,271
9	大動脈瘤 および解離	16,887	腎不全	11,908	血管性等の 認知症	7,968
10	慢性閉塞性 肺疾患	15,756	肝疾患	10,016	アルツハイマ ー病	7,229

資料：厚生労働省「2015 年人口動態統計」

- 死亡総数に占める割合 -



－表 11 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数－

男性			女性		
順位	部位	死亡数(人)	順位	部位	死亡数(人)
	悪性新生物の合計	219,508		悪性新生物の合計	150,838
1	気管、気管支および肺	53,208	1	大腸	22,881
2	胃	30,809	2	気管、気管支および肺	21,170
3	大腸	26,818	3	胃	15,870
4	肝および肝内胆管	19,008	4	膵	15,680
5	膵	16,186	5	乳房	13,584
6	前立腺	11,326	6	肝および肝内胆管	9,881
7	食道	9,774	7	胆のう	9,086
8	胆のう	9,066	8	子宮	6,429
9	悪性リンパ腫	6,656	9	悪性リンパ腫	5,173
10	膀胱	5,582	10	卵巣	4,676

資料：厚生労働省「2015年人口動態統計」